

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『水産業のさかんな地域』

(教科書：『小学社会 5 上』 p. 74～87／学習指導要領：内容 (2) ア, イ, ウ)

2. 小単元の目標

水産業がさかんな地域について調べ、その地域の自然条件や、水産業に携わる人々の工夫や願いを捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
①自分たちが食べている水産物の産地や日本の水産業について関心をもって意欲的に調べている。 ②自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなようになっていくとよいのかを考えようとしている。	①漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、表現している。 ②水産業に携わる人々の仕事の工夫や願い、安定して水産資源を確保していくために必要なことなどについて、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。	①水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取っている。	①日本の水産業がさかんな地域の様子や、水産業に携わる人々の仕事の工夫や費用と値段の決め方について理解している。 ②日本の水産業の現状や安定的に漁業を進めていく養殖業や栽培漁業の取り組みについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

課題に対して興味をもち、意欲的に取り組む児童が多いが、社会的な事象と自分との関わりについて関心をもつ児童は少ない。学習問題に対して、自分の考えを根拠や理由とともに発表できる児童は多くないが、友達の考えを認め、自分の考えを深めようとする姿が少しずつ見られるようになってきている。

絵や写真、グラフなど、資料から読み取り、ノートにまとめる力は少しずつ身につけている。社会的事象を表す用語を知識として理解する児童は多くなっている。

(2) 教材について

本小単元では、水産業に従事している人々が、地形や気候などの様々な自然環境を生かすなど、生産を高める工夫や努力をしていることを具体的に調べ、考えさせる。その際、複数の資料や稲作の学習などに関連づけたりして、水産業が自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考え

ることができるようにする。

また、水産業のさかんな地域では、運輸のはたらきによって鮮度を保ちながら生産物を早く消費地に届ける努力をしていることを捉えさせるために、輸送の経路や様々な情報を利用している事実を具体的に調べさせる。

さらに、水産業の現場では、漁業技術の改善に努めるとともに、養殖業や栽培漁業も取り組んでいることなどを取り上げ、水産資源の保護・育成の必要性について考えさせる。

これらの学習を通して、水産業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えることができるようにする。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、身近な水産物が、どこでとれているのかに興味をもたせ、単元を貫く学習問題を設定する。また、学習問題とまとめを板書に位置づけるようにする。わかりやすい学習問題を設定し、ノートに調べたことや考えたことを書かせる。具体的な調べ活動や複数の資料、これまでの学習でわかったことなどを関連づけて考えさせるよう、学習を展開する。

5. 小単元の指導計画（総時数 8 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	自分たちの食べている水産物の名前や産地を調べ、日本の水産業について興味や関心を持ち、調べる意欲をもつことができるようにする。	○身近な水産物の産地を調べるとともに、主な海流と水あげが多い漁港との関係などについて考えることを通して、学習問題をつくる。 わたしたちが食べている水産物は、どこで多くとれているのだろう。 ・北海道でとれたものが多い。 ・マグロやカツオは、暖流の通る海で多くとれる。 ・暖流と寒流がぶつかるあたりに、水あげ量の多い漁港がいくつもある。 水産業がさかんな地域では、どのような工夫や努力をして、水産物を消費者に届けているのだろう。(単元を貫く学習問題)	◎教科書の資料（主な漁港と水あげ量） ◎水あげの多い漁港と暖流・寒流を書き込むワークシート ◆【関・意・態①】自分が食べている水産物が、どこで、どのようにしてとられているのか、関心をもって調べようとしている。 (観察・発言・ノート)

② (考える)	さんまをとる中陳さんの仕事の様子から、水産業について調べていきたいことを話し合い、様々な工夫をしながらさんま漁を進めていることを調べて捉えられるようにする。	○中陳さんのさんま漁について、イラストの読み取りをもとに調べることを決めたあと、様々な資料をもとに、漁の工夫について具体的に調べる。 漁師の人たちは、どのような方法でさんまをとっているのだろう。 ・漁師の人たちは、経験を生かして魚をとり、鮮度を保つための工夫や努力をしている。	◎さんま漁のイラスト ◎さんまのとり方の動画 ◆【思・判・表①】中陳さんの漁の様子から疑問に思ったことを調べ、さんま漁の工夫や、鮮度を保ったまま運ぶための工夫について考え、表現している。 (観察・発言・ノート)
③ (調べる)	根室港の様子や出荷に向けての仕事を調べ、さんまの出荷に携わる人々の工夫や努力、出荷にかかる費用と値段との関係について、捉えることができるようにする。	○写真や働く人の話を通して、根室港に水あげされたさんまのゆくえについて調べ、加工工場で働く人たちの工夫や努力、値段の決め方やかかる費用などについて話し合う。 さんまをとったあと、漁港では、どのような仕事が行われているのだろう。 ・さんまを出荷するまでには、様々な仕事があり、鮮度や安全性を保つ工夫をしている。	◎教科書の写真（水あげ作業、せりなど） ◎さんまを詰める箱 ◆【知・理①】水あげしたさんまを新鮮なまま出荷するために、様々な仕事の工夫や努力があることや、それらの仕事には費用がかかること、さんまの値段の決め方について理解している。 (観察・発言・ノート)
④ (調べる)	さんまが港から自分たちのもとに届くまでの様子を調べ、産地と消費地を結ぶ流通・輸送のはたらきについて捉えることができるようにする。	○さんまが産地から消費地までどのように運ばれるのかを様々な資料をもとに調べ、運送会社の人たちの工夫や努力、輸送手段やかかる費用の違いについて考える。 さんまはどのようにして、わたしたちのもとに届くのだろう。 ・新鮮なさんまを届けるために、鮮度を保ちながら、決められた時間までに運ぶ工夫をしている。	◎教科書の資料（出荷作業やフェリーなどの写真、各種の輸送経路を示した地図） ◆【技①】さんまが消費地に届くまでには、様々な仕事や輸送の方法があり、それぞれの輸送手段の利点を生かして、水産物が運ばれていることを資料から読み取っている。 (観察・発言・ノート)

⑤ (考える)	北方領土と漁業の制限、水産資源の減少などについて調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考えることができるようにする。	○根室の漁業と北方領土の関係や、日本の漁業の現状について様々な資料を読み取って調べ、漁業に携わる人たちの悩みや願いについて考える。 漁師の人たちは、どのようななやみや願いをもっているのだろう。 ・日本の漁業生産量や漁業で働く人は減ってきている。どうすればよいのだろう。	◎教科書のグラフ（漁業生産量の変化、漁業従事者数の変化） ◎遠洋漁業の動画 ◆【思・判・表②】中陳さんの話などから、漁業が抱えている課題について調べたことをもとに、漁業に携わる人たちの願いについて考え、表現している。 (観察・発言・ノート)
⑥ (考える) 【本時】	根室のブランドさんまを取り上げ、ブランド化に込められた漁業者のねらいと、これからの漁業への願いについて考えることができるようにする。	○「一本立ち歯舞さんま」について調べ、ブランド化に込められた漁業者の願いについて考える。 なぜ、そんなにもうけがないのに、こんなに手間をかけて、一本立ちさんまをつくっているのだろう。 ・ブランド化することによって、全国の人においしく安全な歯舞のさんまを知ってもらい、たくさん食べてもらいたいから。	◎「一本立ち歯舞さんま」のポスター、パンフレット ◎さんま漁船の写真 ◎「一本立ち歯舞さんま」用の魚箱 ◆【思・判・表②】歯舞の一本立ちさんまについて調べたことをもとに、漁業者のこれからの願いについて考え、表現している。 (観察・発言・ノート)
⑦ (調べる)	自然環境を生かしたかんぱち養殖について調べ、質がよく安心な魚を安定して育てる養殖業の工夫や努力に気づくことができるようにする。	○かんぱち養殖の仕事やえさやりの工夫について資料を通して調べ、養殖業に携わる人たちの願いについて話し合う。 魚を育てる養殖業とは、どのような漁業なのだろう。 ・海の環境を守りながら、安全でおいしい魚を届けようと努力している。	◎教科書の資料（作業の様子の写真、生産者の話など） ◎かんぱちの養殖の動画 ◆【知・理②】複数の資料から読み取ったことをもとに、安心な魚を安定して育てるための養殖業の工夫について理解している。 (観察・発言・ノート)

⑧ (まとめる)	安定した漁業生産を目ざした稚魚育成や栽培漁業の取り組みについて調べ、今後の水産業のあり方について考えることができるようにする。	○かんぱちの稚魚育成や栽培漁業の取り組みを調べ、水産資源を守る工夫や願いを考えるとともに、これからの水産業について話し合う。 水産資源を守り育てるために、どのような取り組みが行われているのだろう。 ・水産資源とその周りの自然環境を守りながら、水産業を続けることが大切だ。	◎教科書の資料（水産資源を守る取り組みの写真，図） ◆【関・意・態②】安定して水産資源を確保していくための様々な取り組みについて調べたことをもとに、これからの水産業のあり方について考えようとしている。 (観察・発言・ノート)
-------------	---	--	--

6. 本時の指導（第6時）

（1）本時のねらい

根室のブランドさんまを取り上げ、ブランド化に込められた漁業者のねらいと、これからの漁業への願いについて考えることができるようにする。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○「一本立ち歯舞さんま」について知る。 T：（ポスターを見せて）これは何だと思えますか？ C：さんま。大きいさんま。 C：ブランド？ T：歯舞漁協がつくる「一本立ち歯舞さんま」といいます。根室の船の上から、東京や大阪のデパートで、または直接インターネットで販売をしています。ブランドって知っていますか？「メロンといえば夕張」というように。	◎「一本立ち歯舞さんま」の魚箱とポスター ◇魚沼産コシヒカリや松阪牛など、ブランド化されている他の事例を紹介する。
27	○パンフレットをもとに、一本立ちさんまの秘密を探る。 T：パンフレットをもとに、一本立ちさんまについて調べたことをノートに書きましょう。 C：船上で箱詰め … 大きいさんま、最後の網にかかったもの C：紫外線殺菌 … 衛生に気をつかっている C：マイクロアイス … シャーベットのようない C：トレーサビリティ… 生産者が見える ○学習問題をつくる。 T：一本立ちさんまの値段や量は、どれぐらいでしょう？ 実は、普通のさんまの5倍の値段です。でも、漁師さん	◎「一本立ち歯舞さんま」のパンフレット ◇必要な情報の部分のみ、提示する。 ◇最後の一網で、しかも大型のさんまだけを「一本立ち歯舞さんま」として箱詰めすることに気づかせる。

	が船上で箱詰めするので、200 分の 1 の量しかできません。そんなにもうけが出ない、みんなだったらやる？ C：やらない。 C：面倒くさい。 T：では、歯舞漁協に所属する 22 隻のさんま漁船の中で、一本立ちさんまをつくっているのは何隻？ C：2 隻ぐらい？／半分ぐらい？／全部？ T：正解は 22 隻中 22 隻、全部です。 C：エー、なんで？ なぜ、そんなにもうけがないのに、こんなに手間をかけて一本立ちさんまをつくっているのだろう。 ○自分の考えを書き、ペアと全体で話し合う。 T：それぞれ考えた理由を話し合しましょう。 C：おいしいさんまを食べてもらいたい。 C：歯舞のさんまを有名にしたい。 C：安心して食べられる安全なさんまを届けたい。 C：自分たちのとるさんまに誇りをもっている。	◇さんまが加工場で箱詰めされることを学習しているので、それを振り返り、船上で、しかも漁師が箱詰めする大変さを感じさせる。 ◇自分が漁師だったら、一本立ちさんまをやるかやらないか、判断させる。 ◎さんま漁船の写真 ◆【思・判・表②】歯舞の一本立ちさんまについて調べたことをもとに、漁業者のこれからの願いについて考え、表現している。 (行動・発言・ノート) ◇キーワード 「ブランド化によって」 「安心・安全」「全国・有名」 「おいしさ」 ◇これまでの学習と関連づけて、自分の言葉で考えさせる。
8	○本時のまとめをする。 T：ブランド化と関連づけて、まとめを考えよう。 ブランド化することで、全国の人においしく安全な歯舞のさんまを知ってもらい、たくさん食べてもらいたいから。 T：自分が漁師だったら、一本立ちさんまをやるかやらないか、もう一度考えてみましょう。 C：さっきは「やらない」だったけど、「やる」に変わったよ。 C：漁師の人たちが、一本立ちさんまをつくっている気持ちがわかった。 T：今日の学習の振り返りを書いてください。	◇子どもから出た言葉を拾いあげ、まとめる。 ◇自分の考えの変容を見取らせることで、「自分ごと」として捉えさせる。 ◇特に、内容の学び、授業での変容を重視する。

7. 備考

【板書計画】

一本立ち歯舞さんまのひみつをさぐる

『一本立ち歯舞さんま』のポスター

値段 5 倍
でも
200 分の 1
少しだけ

- ・ 船上で箱詰め
…大きいさんま
最後の網
- ・ 紫外線殺菌
…衛生に気をつけている
- ・ マイクロアイス
…シャーベットのような
氷
- ・ トレーサビリティ
…生産者が見える

なぜ、そんなにうけがないのに、こんなに手間をかけて、一本立ちさんまをつくっているのだろう。

- ・ おいしいさんまを食べてもらいたい
- ・ 有名になってもらいたい
- ・ 歯舞の宣伝になる
- ・ 安心して食べられる安全なさんまを届けたい
- ・ 自分たちのとるさんまに誇りをもっている
- ・ 日本一にしたい

ブランド化することで、全国の人に安全な歯舞のさんまを知ってもらい、たくさん食べてもらいたいから。